

バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】札幌定山溪地区バイオマスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口 (人)	面積 (km ²)
		公表回	公表年月日				
25	2008.4.30	33	2009.3.31	北海道	札幌定山溪地区	1,537	-
構想の要約		札幌市定山溪地域のホテル・旅館等事業者及び住民から排出される生ごみ等の堆肥化による資源化や、その生ごみ堆肥の利活用による農産物の生産、及びその農産物の活用を図る。					
構想に盛り込まれた事業		①生ごみ分別・収集、堆肥化 ②生ごみ堆肥を利用した農作物					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス					
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物	
家畜排せつ物		稲わら・もみがらなど		資源作物	
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部			
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材			
廃食用油	○	果樹剪定枝			
水産加工残さ		竹材			
製材工場等残材		その他()			
建設発生木材					
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草	○				
古紙・廃棄紙					
下水汚泥など					
その他()					

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	
飼料化		直接燃焼	
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他(セメント)	○	炭化	
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	
		バイオディーゼル燃料化	○
		バイオエタノール化	
		その他()	

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

バイオマス利活用目標
(バイオマスタウン構想書からコピー)

バイオマス		賦存量	変換 処理方法	仕向量	利用・販売	利用率(%)
(廃棄物系バイオマス)						
食品 廃棄物	生ごみ(事業系)	4,293 t	堆肥化	3,864 t	農地肥料	90.0
	生ごみ(家庭系)	130 t	堆肥化	117 t	農地肥料	90.0
	廃食油(家庭系)	245 t	BDF化	220 t	BDF化	90.0
その他	草木類(家庭系)	3,267 t	堆肥副資材 木質バイオマス化	2,940 t	農地肥料	90.0
	剪定枝(事業系)	2,208 t	堆肥化	1,987 t	農地肥料	90.0
(未利用バイオマス)						
林地残材	間伐材(国有林)	1,268 t	堆肥副資材 木質バイオマス化	0 t	農地肥料	0.0

バイオスタウン構想概要図 (バイオスタウン構想書からコピー)

バイオスタウン構想 統括図～回収対象と回収イメージ～



実現した事業(その1)

事業の名称	生ごみたい肥化事業(計画中)
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	定山溪地域内
利用するバイオマス	生ごみ(旅館・ホテル事業者)、草本類(一般家庭)、剪定枝
利用する変換技術	たい肥化

事業の概要	<p>添付別紙(パンフレット等)参照</p> <p>(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)</p> <p>添付農林水産省作成資料「バイオマス利活用の取組事例」参照。</p>
-------	---

ア 北海道札幌市（計画中）

都道府県名	北海道	市町村名	札幌市
市町村人口	188万4939人	市町村面積	1,121.12 km ²
主要施設の名称	生ごみたい肥化施設	実施主体名	株ばんけいリサイクルセンター
原材料 (利用量 賦存量)	生ごみ、草木類、剪定枝 生ごみ（事業系）：利用量3,864 t/年、賦存量4,293 t/年 草木類（家庭系）：利用量2,940 t/年、賦存量3,267 t/年 剪定枝（事業系）：利用量1,987 t/年、賦存量2,208 t/年 ※賦存量は平成19年度実績値		
変換技術 (生産量)	たい肥 処理能力：9,000 t/年、たい肥生産量：3,517 t/年		
取組の目的 /背景	<ul style="list-style-type: none"> ・定山溪地域内にバイオマス資源化施設を整備するとともに、生ごみたい肥の利活用やそれによる農産物の生産・利活用を推進することにより、「バイオマス地域内循環」を実現する。この「地域内循環」の実現により、以下の2つを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ①定山溪地区の健康保養温泉地としての魅力度を向上させ、地域振興を図る。 ②札幌市の緊急課題である廃棄物の減量・資源化を推進する。 		
取り組むきっかけとなった課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策、清掃工場の老朽化に伴う建て替え問題、埋立地の残余容量問題 		
実績 (計画段階のものは計画値を記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・計画概要 ホテル・旅館等事業者から分別して排出される生ごみ（食品残さ）、一般家庭の草木類、事業で生じた剪定枝などをたい肥化施設において資源化する。 ・初期費用 8億885万円（計画値） ・資金確保の工夫 地域バイオマス利活用交付金の利用を計画 		
事業を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみたい肥の利活用の推進 		
維持管理体制 (維持管理)	(施設整備に向けて取組中)		

費の実績)		
直面した課題を解決した工夫	<p>農家の方が持っている生ごみたい肥への不安を解消するために、生ごみの調査研究を進めるとともに、農家や農業協同組合、農業試験場等の関係機関と連携した協議会を設立し、「農家の方に使ってもらえるたい肥づくり」を進める計画。</p>	
取組により得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域循環によりつくられるたい肥により生産される安心安全な有機野菜などをホテルの食事として使用することで、定山溪地域における「健康保養温泉地」づくりの促進が期待される。 ・また、安心安全な農作物の活用により、定山溪地域ブランドとしての価値も高められる。 ・廃棄物系バイオマスの利用率を高めることで、焼却ごみの減量に貢献。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>生ごみたい肥の利用</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生ごみの分別</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>エコ野菜の販売</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生ごみの回収</p> </div> </div>	
課題／展望	<p>平成 22 年度に生ごみたい肥化施設を整備予定 (21 年度：調査・設計・手続き、22 年度：建設)</p>	
その他		
連絡先	電話番号：011-211-2928	FAX 番号：011-218-5108
	所属部署：環境事業部ごみ減量推進課	e-mail：seiso@city.sapporo.jp